

# 第2次北九州市生物多様性戦略の 進捗報告(令和4年度実績)について

環境局環境監視課

## 本市の生物多様性に関するこれまでの取組

- ▶平成17年9月、政令市で初めて、自然環境保全の基本計画である「北九州市自然環境保全基本計画」を策定
- ▶平成22年11月、生物多様性基本法の制定を受けて、北九州市自然環境保全基本計画を改訂する形で「北九州市生物多様性戦略」を策定
- ▶平成28年3月、生態系サービスや生物多様性の危機等の新しい視点を盛り込んだ「第2次北九州市生物多様性戦略」を策定

# 第2次北九州市生物多様性戦略の構成

## 《2015年度～2024年度》

- ◆ 基本理念：都市と自然との共生～豊かな自然の恵みを活用し自然と共生するまち～
- ◆ 5つの基本目標と12の方向性、60の基本施策を設定

基本目標		方向性	
1	自然とのふれあいを通じた生物多様性の重要性の市民への浸透	1	自然環境にふれあう機会の創出
		2	農林水産業の活性化と地産地消を通じたふれあいの推進
		3	里地里山の利用と活用
2	地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成	4	環境教育・学習の推進、普及啓発
		5	自然環境に精通した人材の育成
3	自然環境の適切な保全による、森・里・川・海などがもつ多様な機能の発揮	6	生態系ネットワークの形成
		7	地域固有の生態系の保全と利用
		8	希少種の保全及び外来種の対策
4	人と自然の関係を見直し、自然から多くの恵みを感じることができる状態の維持	9	自然と調和した都市基盤整備の促進
		10	事業の実施に伴う環境配慮
5	自然環境調査を通じて情報を収集、整理、蓄積し、保全対策などでの活用	11	自然環境調査の実施とデータベースの構築
		12	市民参加による自然環境情報の収集

2

## 戦略の推進に向けた数値目標

### 基本目標1 自然とのふれあいを通じた生物多様性の重要性の市民への浸透

番号	項目	単位	目標値(年度)
1	本市が取り組む環境学習プログラムとしてのエコツアー参加人数	人	6,500(2020)
2	響灘ビオトープのガイドツアー参加人数	人	4,000(2020)
3	自然環境体感ツアーの参加人数	人	500(2019 累計)

### 基本目標2 地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成

番号	項目	単位	目標値(年度)
1	小学生の環境体験科における響灘ビオトープ活用数	校	25(2024)
2	響灘ビオトープのガイドツアー参加人数【再掲】	人	4,000(2020)

### 基本目標3 自然環境の適切な保全による、森・里・川・海などがもつ多様な機能の発揮

番号	項目	単位	目標値(年度)
1	自然環境保全に取り組む団体への支援件数	件	10(2024)
2	「北九州市自然環境保全ネットワークの会」参加団体等が開催する自然環境保全活動参加者数	人	約2,000(2024)

### 基本目標4 人と自然の関係を見直し、自然から多くの恵みを感じることができる状態の維持

番号	項目	単位	目標値(年度)
1	環境首都100万本植樹プロジェクトによる植樹本数	本	1,000,000 (2024累計)
2	市街地(市街化区域)の緑の確保	%	9.5(2020 累計)

### 基本目標5 自然環境調査を通じて情報を収集、整理、蓄積し、保全対策などでの活用

番号	項目	単位	目標値(年度)
1	ベッコウトンボ市民調査実施回数	回	3(2020)
2	曾根干潟における生物調査の実施	回	4(2020)

3

# 基本目標 1

自然とのふれあいを通じた  
生物多様性の重要性の市民への浸透



## ◆数値目標

	項目	目標値(年度)	2022 (R4)	2021 (R3)	2020 (R2)
1	本市が取り組む環境学習プログラムとしてのエコツアー参加人数	6,500人 (2020)	2,698	1,512	895
2	響灘ビオトープのガイドツアー参加人数	4,000人 (2020)	5,498	2,704	2,432
3	自然環境体感ツアーの参加人数	500人 (2019 累計)	879	790	642 (2019時点579)

## ◆基本施策に基づく主な取組

- ・響灘ビオトープガイドツアー・エコツアー  
[エコツアー(自然観察講座)]
- ・ふれあい花壇・菜園の貸出(35件)  
[ふれあい花壇・菜園]
- ・種苗放流、藻場等の環境保全活動(5地区)  
[水産環境の保全]



カブトガニ産卵観察ツアー

4

# 基本目標 2

地球規模の視野を持って  
行動できるような高い市民環境力の  
醸成



## ◆数値目標

	項目	目標値(年度)	2022 (R4)	2021 (R3)	2020 (R2)
1	小学校の環境体験科における響灘ビオトープの活用校数	25校 (2024)	25	4	6
2	響灘ビオトープのガイドツアー参加人数【再掲】	4,000人 (2020)	5,498	2,704	2,432

## ◆基本施策に基づく主な取組

- ・環境首都検定(受験者 5,751人)  
[環境学習事業の推進]
- ・エコライフステージ(参加者 約90万人)  
[環境学習事業の推進]
- ・SDGs環境アクティブ・ラーニング(実施校 107校)  
[学校教育における自然環境に視点を当てた教育の推進]



エコライフステージ

5

# 基本目標 3

自然環境の適切な保全による、  
森・里・川・海などがもつ多様な  
機能の発揮



## ◆数値目標

	項目	目標値 (年度)	2022 (R4)	2021 (R3)	2020 (R2)
1	自然環境保全に取り組む団体への支援 件数	10件 (2024)	9	9	9
2	「北九州市自然環境保全ネットワークの 会」参加団体等が開催する自然環境保全 活動参加者数	約2,000人 (2024)	約2,100	約2,500	約2,000

## ◆基本施策に基づく主な取組

- ・自然環境保全活動や普及啓発活動を行う団体  
への支援（補助団体数 9 団体）  
[自然環境保全活動支援事業]
- ・特定外来生物に関する市民啓発  
[外来種に関する市民啓発の実施]



市民団体によるガシャモク観察会

6

# 基本目標 4

人と自然の関係を見直し、自然から  
多くの恵みを感じることができる状態の維持



## ◆数値目標

	項目	目標値 (年度)	2022 (R4)	2021 (R3)	2020 (R2)
1	環境首都100万本植樹プロジェクトによる 植樹本数	1,000,000本 (2024 累計)	784,926	750,233	739,033
2	市街地（市街化区域）の緑の確保	9.5% (2020 累計)	8.5	8.4	8.4

## ◆基本施策に基づく主な取組

- ・響灘ビオトープ園内除草による湿地帯保全  
[ビオトープなどの自然共生型地域づくり]
- ・環境配慮点検制度の運営(54件の公共事業について  
点検)  
[北九州市環境配慮指針の活用推進]



響灘ビオトープ

7

# 基本目標 5

自然環境調査を通じて情報を収集、整理、蓄積し、保全対策などでの活用



## ◆数値目標

	項目	目標値 (年度)	2022 (R4)	2021 (R3)	2020 (R2)
1	ベッコウトンボ市民調査実施回数	3回 (2020)	7	1	0
2	曾根干潟における生物調査の実施	4回 (2020)	8	8	8

## ◆基本施策に基づく主な取組

- ・曾根干潟環境調査（鳥類調査、底生動物等調査）  
[実態把握の推進]
- ・曾根干潟モニタリングサイト1000（環境省実施）  
[実態把握の推進]



ベッコウトンボ頭数調査  
※木の棒で草むらを軽く触りながら調査する

8

## 本戦略の総合評価

- 本戦略に掲げている基本目標の達成に向けた60の基本施策は、ほぼ全て取組を実施
- 市民参加型施策への新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなり、概ね順調に目標値に向かって進捗

## 今後の取組

- COP15で新たに「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」が採択されたことや、「新国家戦略」の策定を受け、本市戦略を改訂
- 新国家戦略で掲げられた2030年ミッション「ネイチャーポジティブ（自然再興）<sup>\*1</sup>」の実現、「30by30目標<sup>\*2</sup>」の達成に向け、市域内の「自然共生サイト<sup>\*3</sup>」認定を推進

※1：自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること

※2：2030年までに陸と海の30%以上の保全を目指すもの

※3：民間の取組等により生物多様性の保全が図られている区域として、国が認定する新たな取組。保護地域との重複を除外した地域が「OECD<sup>\*4</sup>」として、国際データベースに登録される。

※4：Other effective area-based conservation measuresの略  
国立公園等の法令による保護地域以外で、生物多様性保全に資する地域のこと

9